『國民新報』1940年5月26日

[主張]『尚氣節、廉恥重』[[1]](#footnote-1)

　五月二十二日は、くも年に をはつた日で、め にいて 五十万年は、、、によつて、このきみことのりに ひたてまつらんとの をにし、に、そのと々しきをした。

『ニヒヲヒテ ノヲニセムトスル タルメテク タルダシ シテ ノニ 繋リテ年ノニリ レヲビヲンジ ノニ稽ヘノニミノヲニシ ノヲジルヲハズ 嚮フヲラズ ノヲシヲメヲリ ノヲシテ荷ノヲクセムコトヲ セヨ』

とうた。

　年たるものにこのありがたき みことのりをにしにしたてまつつて そのをしたてまつるべきである。

　まづすることが であつて、へし繰返へし してゐるにれた き御をしたてまつるのである。

　かれこれと をしたてまつるのもきことではあるが、に

『ヲビヲンジ』

とうたことにき、の年のをしたい。この二つのは年ののであり、またとしての一のであるやうにする。

をぶとはであるか。それはにいては、のためにもをもげることであつて、ちにずることである。しかしてにいては、にはにはれずせず、には、とずるところはをみずしてすることであるとする。さればこのこそはのであり であらねばならない。

にをんずとは ういふことであるか。これは、、、などにするをとにはぬやうにする ことであるとする。をすることがあつてものをまぬ、といつたであるとする。のがになつて、り萬につた、年のなが、かゝるのにすることを められふたことでにおそれおほいみである。

はくは年よ。をびをんずるをへて のをにするをくするものとなり、ありがたきにいたてまつらうではないか。

1. この文章は一部「わかちがき」がなされている。 [↑](#footnote-ref-1)